

お台場鳥の島（2 島）における鳥類のモニタリング調査 秋季調査（10 月）報告書

2020 年 11 月 一般社団法人お台場海づくり協議会

1. 調査目的

お台場海浜公園内防波堤（以下、旧防波堤：2 島と記す）における鳥類の生息環境の保全について検討するために、当地における鳥類の利用状況の現況を把握するとともに、今後の経年変化を把握するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

旧防波堤 2 島及び周辺水域（周辺 50 m 程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和 2 年 10 月 19 日（月）	8：00～14：00	曇りのち雨

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8～10 倍程度の双眼鏡や倍率 20～60 倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、上陸後に実施する（2）～（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。また、補足調査として（5）の調査を行った。

（1） 船上センサス

2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、2 島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

（2） ラインセンサス

2 島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1～2km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートは各島に 1 本を設定し、観察範囲は片側 50m（両側 100m）とした。

(3) 定点観察調査

2 島の各 2 点に眺望のよい定点を設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は 50m 程度、調査時間は各 30 分間とした。

(4) 任意観察調査

2 島を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

- 自動撮影カメラによる調査

第 5 回の秋季調査にて、ホンダヌキのため糞が確認されたことから、島内の生息状況を確認するため、夏季調査から秋季調査までの 81 日間、西島に自動撮影カメラを 1 台設置した。

- その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。



写真 1(1) 各調査手法における調査風景



写真 2(2) 各調査手法における調査風景



図 1 調査地点図

5. 評価方法

(1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果の評価をした。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 6 回の秋季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季
第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季（予定）

(2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。このうち、いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天:特別天然記念物 天 :天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	レッドデータブック東京 2013(区部)鳥類 (平成 25 年、東京都)※以下、東京都 RDB と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 *:留意種

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、9 目 21 科 25 種が確認された（表 4）。
- 確認種のおよそ半数は水域やその周辺に生息する鳥類であり、ハシビロガモやアオサギ、セグロカモメ等 13 種が確認された。島内では、シジュウカラやヒヨドリ、オオムシクイ等の森林やその周辺に生息する鳥類が 7 種確認されたほか、都市部で見られるスズメやムクドリ等の鳥類が 2 種、様々な環境で見られるキジバトやハシブトガラス等の鳥類が 3 種確認された。（表 4）
- 渡り区別にみると、カルガモやウグイス等の留鳥（ある地域で一年中見られる種）が最も多く、次いでハシビロガモやユリカモメ等の冬鳥（ある地域で冬に見られる種）が確認されたほか、当地では旅鳥（ある地域で一時的に見られる鳥）のオオムシクイやカッコウ科の一種も確認された。
- 重要種はオオバン、イソシギ、オオセグロカモメ、ミサゴ、トビ、オオムシクイ、イソヒヨドリ、セグロセキレイの合計 8 種が確認された（表 4）。島内では、護岸で採餌や休息するイソシギ、イソヒヨドリが、陸域の低茎草地では、採餌するオオバンが、広葉樹林では、上空で採餌するトビや採餌するオオムシクイが確認された。また、島周辺の海域では、採餌するミサゴや上空を通過するオオセグロカモメ、セグロセキレイが確認された。なお、オオセグロカモメは 2020 年の環境省 RL 改定により準絶滅危惧に選定されている。
- 外来種は確認されなかった（表 4）。
- 確認個体数が特に多かった種はヒヨドリであった。本種は、船上センサスでは 2 島で合計 130 個体（表 5）、ラインセンサスでは合計 47 個体（表 6）が確認され、優占度は東島で 70%、西島で 32%を占め、定点観察調査では合計 217 個体（表 7）が確認された。落葉広葉樹林や低茎草地等で採餌、休息する個体や、群れて飛翔する様子が観察された。
- ヒヨドリに次いで確認個体数が多かった種はカワウであった。本種は、船上センサスでは 2 島で合計 14 個体（表 5）、ラインセンサスでは合計 4 個体（表 6）、定点観察調査では合計 12 個体（表 7）が確認され、巣材運びや護岸で休息する個体、海域を飛翔する個体等が観察された。
- 広葉樹でシジュウカラが昆虫類、ヒヨドリがエノキの実を採餌する様子が、低茎草地でオオバンが草本を採餌する様子が、護岸ではイソシギやハクセキレイが小型節足動物を採餌する様子が確認された。

(2) 過去調査との比較

表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、それぞれの前回調査（秋季）との比較を示し、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 前回調査（秋季）との確認種数の比較は、第 5 回では東島で 23 種、西島で 22 種、合計 28 種、第 6 回では東島で 20 種、西島で 17 種、合計 25 種であった（表 8）。第 5 回の確認種のうち、モズや鳥の島周辺に飛来していない冬鳥を除く 18 種はすべて第 6 回でも確認されており、鳥類相に大きな変化はなかった。
- 第 5 回で確認されず第 6 回で確認された種はハシビロガモ、オオバン、カッコウ科の一種、オオセグロカモメ、ウグイス、オオムシクイ、セグロセキレイの 7 種であり、第 5 回で確認され第 6 回で確認されなかった種はヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、セグロカモメ、モズ、ツグミ、ジョウビタキ、アオジ、オオジュリンの 10 種であった（表 7）。今回の調査では、冬鳥の確認種数が少なかった。
- 第 5 回より第 6 回で個体数が多く優占度が高い種はヒヨドリであった（表 8、9）。昨年同様に多数の渡り個体の飛翔や採餌が観察され、優占度が高くなった。今回調査では、いずれの調査方法においても群れで飛翔する様子や採餌する様子が確認された。
- 第 5 回より第 6 回でカモ類の種数が減少した（表 8、9、10）。カモ類の多くは冬鳥であり、まだ鳥の島周辺に飛来していなかったことが要因と考えられる。
- ミサゴは過去に 9 回確認されており、そのうち 7 回は秋季、2 回は冬季に確認されている。ミサゴは非繁殖期に繁殖地から離れて河口や海岸等で過ごす個体が多くみられるため、今回確認された個体も繁殖地から渡ってきた個体で、一時的に鳥の島周辺を利用したものと考えられる。
- 今回の調査で初めて確認された種はハシビロガモ、カッコウ科の一種であった（表 11）。ハシビロガモは西島での任意調査中、海域で休息する 1 個体を確認された。カッコウ科の一種はカッコウまたはツツドリの可能性があり、落葉広葉樹にとまる 1 個体を確認された。ハシビロガモ（都内では冬鳥）やカッコウ科の一種（夏鳥）は、今回の調査では渡りの途中で鳥の島周辺を一時的に利用したものと考えられる。
- 第 3 回ぶりにオオセグロカモメが確認された。本種は冬鳥であり、今回の調査では渡りの途中もしくは越冬個体を確認されたものと考えられる。

(3) その他

その他方法（自動撮影カメラ設置による調査及び鳥類調査時の他項目の調査）による結果について鳥類 3 目 3 科 3 種、哺乳類 1 目 1 科 1 種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではキジバト、オオタカ、ハシブトガラスの 3 種、哺乳類ではドブネズミ 1 種が確認された。
- 自動撮影カメラ調査において、ホンドタヌキは撮影されなかった。秋季調査においてもホンドタヌキの新しいため糞は確認されなかったことから、2019 年の秋季に一時的に西島を利用していたものと考えられる。
- 重要種として、オオタカ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧、東京都レッドリスト：絶滅危惧 IA 類）が地面にとまり、餌(キジバト?)を持つ様子や、雌同士で攻撃しあう様子等が 8～10 月に 3 回撮影され、非繁殖期にも西島を利用する様子が確認された。

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	調査時期		重要種選定基準			
				秋季(10月)		①	②	③	④
				東島	西島				
1	カモ	カモ	カルガモ	○	○				
2			ハシビロガモ		○				
3	ハト	ハト	キジバト	○					
4	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○				
5	ペリカン	サギ	アオサギ	○	○				
6	ツル	クイナ	オオバン	○					VU
7	カッコウ	カッコウ	カッコウ科の一種	○					
8	チドリ	シギ	イソシギ	○	○				VU
9		カモメ	ユリカモメ	○	○				
10			ウミネコ	○	○				
11			オオセグロカモメ	○				NT	
12	タカ	ミサゴ	ミサゴ	○	○			NT	EN
13		タカ	トビ	○	○				NT
14	スズメ	カラス	ハシブトガラス	○	○				
15		シジュウカラ	シジュウカラ	○	○				
16		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○				
17		ウグイス	ウグイス	○					
18		ムシクイ	オオムシクイ		○			DD	
19		メジロ	メジロ	○					
20		ムクドリ	ムクドリ	○					
21		ヒタキ	イソヒヨドリ		○				DD
22		スズメ	スズメ	○					
23		セキレイ	ハクセキレイ	○	○				
24			セグロセキレイ		○				VU
25		アトリ	カワラヒワ		○				
合計	9 目	21 科	25 種	20 種	17 種	0 種	0 種	3 種	6 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2. 重要種選定基準は表 3 に従った。

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				秋季(10月)		
				東島	西島	
1	カツオドリ	ウ	カワウ	13	1	14
2	ペリカン	サギ	アオサギ	20	2	22
3	チドリ	シギ	イソシギ	2	7	9
4		カモメ	ユリカモメ	1	0	1
5			ウミネコ	1	4	5
6		スズメ	カラス	ハシブトガラス	4	2
7	シジュウカラ		シジュウカラ	1	1	2
8	ヒヨドリ		ヒヨドリ	20	110	130
9	スズメ		スズメ	5	0	5
10	セキレイ		ハクセキレイ	1	1	2
合計	4 目	9 科	10 種	68	128	196
				10 種	8 種	10 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				秋季(10月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カツオドリ	ウ	カワウ	0	0%	4	18%	4
2	チドリ	シギ	イソシギ	1	2%	2	9%	3
3		カモメ	ユリカモメ	0	0%	1	5%	1
4			ウミネコ	1	2%	0	0%	1
5	スズメ	カラス	ハシブトガラス	9	16%	3	14%	12
6		シジュウカラ	シジュウカラ	4	7%	0	0%	4
7		ヒヨドリ	ヒヨドリ	40	70%	7	32%	47
8		セキレイ	ハクセキレイ	2	4%	0	0%	2
9		アトリ	カワラヒワ	0	0%	5	23%	5
合計	3 目	8 科	9 種	57	100%	22	100%	79
				6 種		6 種		9 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体数
				秋季(10月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	
1	カモ	カモ	カルガモ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	1
2			ハシビロガモ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	1
3	ハト	ハト	キジバト	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	1
4	カツオドリ	ウ	カワウ	4	13%	4	2%	3	18%	1	2%	12
5	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	1	1%	0	0%	2	3%	3
6	チドリ	シギ	イソシギ	2	7%	2	1%	2	12%	1	2%	7
7		カモメ	ユリカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%	2
8			ウミネコ	4	13%	6	3%	0	0%	6	10%	16
9			オオセグロカモメ	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	1
10	タカ	タカ	トビ	2	7%	0	0%	0	0%	0	0%	2
11	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	7%	3	2%	2	12%	1	2%	8
12		シジュウカラ	シジュウカラ	1	3%	2	1%	0	0%	0	0%	3
13		ヒヨドリ	ヒヨドリ	11	37%	152	88%	9	53%	45	74%	217
14		メジロ	メジロ	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	1
15		ムクドリ	ムクドリ	2	7%	0	0%	0	0%	0	0%	2
16		セキレイ	ハクセキレイ	0	0%	2	1%	1	6%	1	2%	4
合計	7 目	13 科	16 種	30	100%	173	100%	17	100%	61	100%	281
				10 種		9 種		5 種		10 種		16 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較：確認種（秋季）

No.	種名	調査時期			
		秋季(10月)		秋季(10月)	
		第5回 (R1～R2)		第6回 (R2～R3)	
		東島	西島	東島	西島
1	ヒドリガモ		○		
2	カルガモ	○	○	○	○
3	ハシビロガモ				○
4	ホシハジロ		○		
5	キンクロハジロ		○		
6	スズガモ	○	○		
7	キジバト	○	○	○	
8	カワウ	○	○	○	○
9	アオサギ	○	○	○	○
10	オオバン			○	
11	カッコウ科の一種			○	
12	イソシギ	○	○	○	○
13	ユリカモメ	○	○	○	○
14	ウミネコ	○	○	○	○
15	セグロカモメ	○		○	
16	オオセグロカモメ			○	
17	ミサゴ		○	○	○
18	トビ	○	○	○	○
19	モズ	○	○		
20	ハシブトガラス	○	○	○	○
21	シジュウカラ	○	○	○	○
22	ヒヨドリ	○	○	○	○
23	ウグイス			○	
24	オオムシクイ				○
25	メジロ	○	○	○	
26	ムクドリ	○		○	
27	ツグミ	○			
28	ジョウビタキ	○			
29	イソヒヨドリ		○		○
30	スズメ	○	○	○	
31	ハクセキレイ	○	○	○	○
32	セグロセキレイ				○
33	カワラヒワ	○	○		○
34	アオジ	○			
35	オオジュリン	○			
合計	35 種	23 種	22 種	20 種	17 種
		28 種		25 種	

表 9 前回調査との比較：船上センサス結果（秋季）

No.	種名	調査時期			
		秋季(10月)		秋季(10月)	
		第5回 (R1～R2)		第6回 (R2～R3)	
		東島	西島	東島	西島
1	アオサギ	14	1	20	2
2	イソシギ	1	0	2	7
3	イソヒヨドリ	0	1	0	0
4	ウミネコ	0	0	1	4
5	カルガモ	0	2	0	0
6	カワウ	13	25	13	1
7	キンクロハジロ	0	4	0	0
8	シジュウカラ	2	0	1	1
9	ジョウビタキ	1	0	0	0
10	スズガモ	0	158	0	0
11	スズメ	2	4	5	0
12	トビ	2	1	0	0
13	ハクセキレイ	0	0	1	1
14	ハシブトガラス	3	9	4	2
15	ヒドリガモ	0	1	0	0
16	ヒヨドリ	40	6	20	110
17	ホシハジロ	0	4	0	0
18	メジロ	3	0	0	0
19	ユリカモメ	4	0	1	0
合計個体数		85	216	68	128
合計島別種数		11 種	12 種	10 種	8 種
合計種数		17 種		10 種	

表 10 前回調査との比較：ラインセンサス結果（秋季）

No.	種名	調査時期							
		秋季(10月)				秋季(10月)			
		第5回(R1～R2)				第6回(R2～R3)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジバト	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%
2	カワウ	1	1%	5	19%	0	0%	4	18%
3	アオサギ	0	0%	2	7%	0	0%	0	0%
4	イソシギ	0	0%	0	0%	1	2%	2	9%
5	ユリカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	1	5%
6	ウミネコ	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%
7	トビ	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%
8	モズ	1	1%	1	4%	0	0%	0	0%
9	ハシブトガラス	0	0%	7	26%	9	16%	3	14%
10	シジュウカラ	2	3%	0	0%	4	7%	0	0%
11	ヒヨドリ	60	76%	10	37%	40	70%	7	32%
12	メジロ	8	10%	0	0%	0	0%	0	0%
13	ハクセキレイ	2	3%	0	0%	2	4%	0	0%
14	カワラヒワ	2	3%	1	4%	0	0%	5	23%
15	オオジュリン	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	15 種	79	100%	27	100%	57	100%	22	100%
		9 種		7 種		6 種		6 種	

表 11 前回調査との比較：定点観察結果（秋季）

No.	種名	調査時期															
		秋季(10月)								秋季(10月)							
		第5回(R1~R2)								第6回(R2~R3)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	2	4%	5	8%	5	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%
2	ハシビロガモ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%
3	ホシハジロ	0		0	0%	6	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
4	キンクロハジロ	0	0%	0	0%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
5	スズガモ	0	0%	15	25%	149	62%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
6	キジバト	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%
7	カワウ	2	4%	3	5%	2	1%	17	35%	4	13%	4	2%	3	18%	1	2%
8	アオサギ	1	2%	3	5%	0	0%	1	2%	0	0%	1	1%	0	0%	2	3%
9	イソシギ	0	0%	1	2%	2	1%	2	4%	2	7%	2	1%	2	12%	1	2%
10	ユリカモメ	0	0%	2	3%	15	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%
11	ウミネコ	0	0%	1	2%	1	0%	2	4%	4	13%	6	3%	0	0%	6	10%
12	オオセグロカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%
13	ミサゴ	0	0%	0	0%	1	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14	トビ	2	4%	0	0%	0	0%	3	6%	2	7%	0	0%	0	0%	0	0%
15	モズ	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16	ハシブトガラス	0	0%	2	3%	2	1%	2	4%	2	7%	3	2%	2	12%	1	2%
17	シジュウカラ	2	4%	0	0%	1	0%	0	0%	1	3%	2	1%	0	0%	0	0%
18	ヒヨドリ	8	18%	11	18%	52	22%	2	4%	11	37%	152	88%	9	53%	45	74%
19	メジロ	4	9%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%
20	ムクドリ	8	18%	0	0%	0	0%	0	0%	2	7%	0	0%	0	0%	0	0%
21	ツグミ	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
22	ジョウビタキ	2	4%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
23	スズメ	10	22%	13	21%	0	0%	18	37%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
24	ハクセキレイ	2	4%	2	3%	1	0%	1	2%	0	0%	2	1%	1	6%	1	2%
25	カワラヒワ	0	0%	1	2%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
26	アオジ	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	26 種	45	100%	61	100%	239	100%	49	100%	30	100%	173	100%	17	100%	61	100%
		13 種		14 種		14 種		10 種		10 種		9 種		5 種		10 種	

表 12 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R2 秋)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	オカヨシガモ				○		○	○			○		
2	ヒドリガモ							○	○				
3	マガモ		○	○	○		○			○	○		
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	ハシビロガモ												○
6	オナガガモ				○	○	○	○					
7	コガモ									○			
8	ホシハジロ						○	○	○	○			
9	キンクロハジロ								○				
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
11	ウミアイサ		○					○		○	○		
12	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
13	ミミカイツブリ			○									
14	ハジロカイツブリ	○	○	○	○			○	○		○		
15	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
16	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	ゴイサギ					○							
18	ササゴイ		○										
19	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
21	チュウサギ							○					
22	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
23	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
24	カッコウ科の一種											○	
25	コチドリ	○	○		○	○	○	○	○				
26	タシギ										○		
27	キアシシギ							○					
28	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	キョウジョシギ					○	○						
30	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
31	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
32	カモメ	○	○			○							
33	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
34	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○	
35	コアジサシ	○	○	○	○	○	○				○		
36	ミサゴ	○		○			○		○		○	○	○
37	ハチクマ	○											
38	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39	ハイタカ		○		○			○					
40	オオタカ	○		○	○	○	○				○		●

表 12 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 秋)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
41	ノスリ		○	○	○	○		○		○			
42	カワセミ			○			○	○					
43	チョウゲンボウ		○				○			○			
44	ハヤブサ			○	○	○	○			○	○		
45	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○		
46	カケス				○								
47	オナガ			○	○	○	○	○					
48	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
49	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50	ヒバリ						○						
51	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
52	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
53	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
54	オオムシクイ										○		○
55	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
56	オオヨシキリ			○		○		○	○				
57	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
58	コムクドリ				○	○							
59	シロハラ	○	○	○	○								
60	アカハラ	○			○				○	○			
61	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
62	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○		
63	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○
64	キビタキ	○				○							
65	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
66	キセキレイ			○									
67	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
68	セグロセキレイ				○								○
69	タヒバリ						○		○				
70	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
71	シメ									○			
72	ホオジロ	○		○	○			○		○			
73	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
74	オオジュリン			○				○					
75	ドバト	○	○						○	○			
合計	75 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	44 種	39 種	38 種	38 種	20 種	17 種
		47 種		53 種		51 種		50 種		47 種		25 種	

注 1. ●:自動撮影カメラのみで確認された種を示す。他調査回とは調査手法が異なるため、種数に計上しなかった。



ハシビロガモ



カワウ



アオサギ



オオバン(重要種)



イソシギ(重要種)



ユリカモメ



ウミネコ



オオセグロカモメ(重要種)



ミサゴ(重要種)



トビ(重要種)

写真 2 (1) 鳥の島で確認された主な鳥類

 ハシブトガラス	 シジュウカラ
 ヒヨドリ	 イソヒヨドリ(重要種)
 ハクセキレイ	

写真 2 (2) 鳥の島で確認された主な鳥類

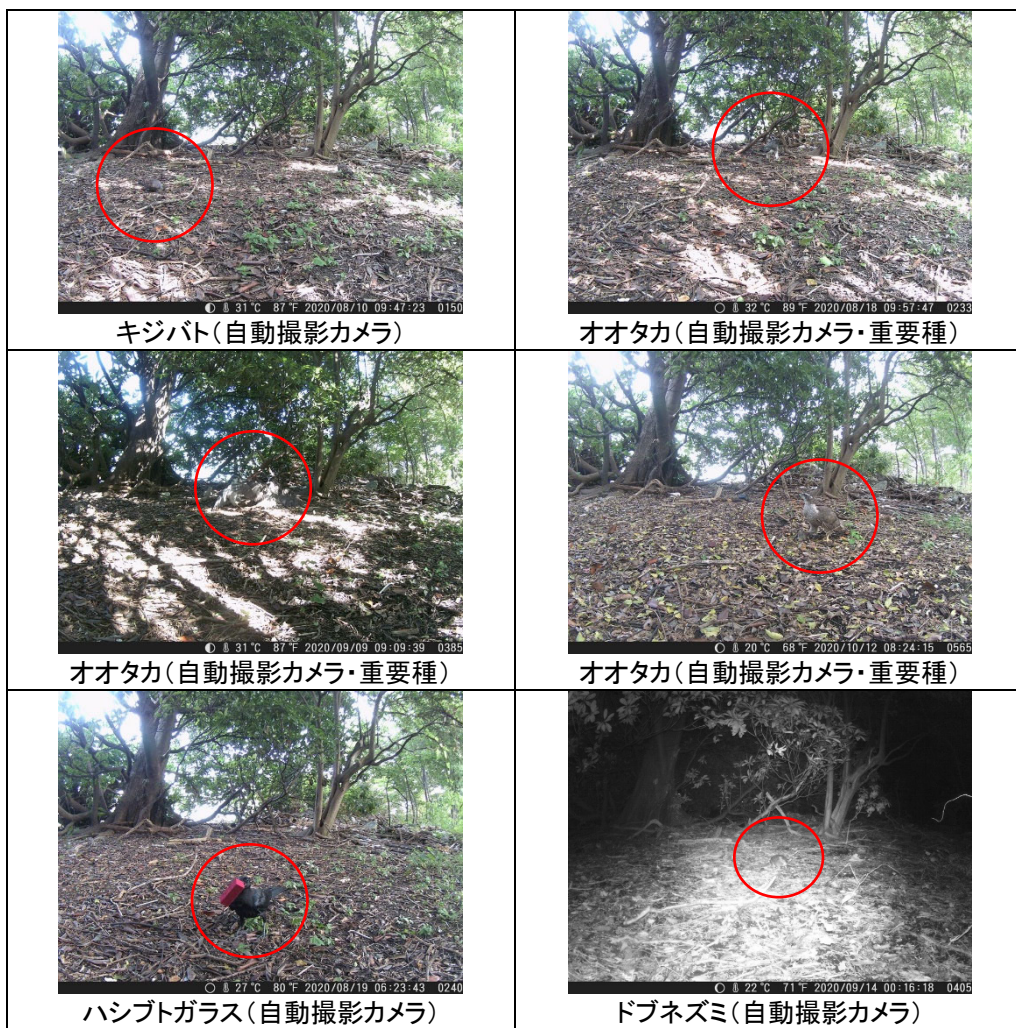


写真 3 自動撮影カメラ及び踏査中に確認された生き物